

ひろば 大代

556.6.15

大代公民館

梅雨時の健康について

大代中学校養護教諭

桑原淳子

「梅雨」は、植物が育つには大切な雨ですが、私達にとつてはジメジメして暑くゆううつな気持ちになる時期です。また伝染病などいろいろな病気を発生しやすい時期です。

そこで病気の予防と衛生について次のようなことに気をつけて梅雨時の健康を維持しましょう。

最も大切なことは胃腸の働きが弱っているので、食べ過ぎ、飲み過ぎをしないこと。特になま水や冷たい物は胃腸の働きを弱めます。またしまつておいた衣服や、本、布団、そしてお菓子やその他の食物などに

いつの間にかカビがはえています。高温多湿のこの時期はカビにとつては最適な環境なのです。カビをほやさない様に通風をよくし、天気の良い日には日光消毒をしましょう。食物に付くカビの中には有毒なものもあり、中毒を起すことになりやすから食物持にまま物は新鮮なうちに食べるか又は火を通して食べるなどの心がけが大切です。またジメジメと汗の蒸発が悪く体が汚れやすい時です。なるべく毎日入浴を励行して髪や体を清潔にして下着もとり換えましょう。

梅雨に負けない様、日頃の衛生に注意し、適度な運動を忘れず、健康な体でこの時期をのりこえたいものです。

6月15日は父の日

私の父

川上岩田律枝

「貴女のお父さんとはどんな方ですか」と聞かれたら、何のためらいもなく「最高のお父さん」と答える苦しさもなく、仕事一すじに働き、た人です。叱る時には強く注意する。時には冷静に理を通して教える。そんな父が大好きです。

今一つ父にとつて切な放せないものは和牛の飼育です。せまかいでもあり唯一の楽しみで何度共進会でも賞した事か。七十六才の今も牛を飼う時には鼻唄をかきいばをやっています。この姿が何時までも続く事を願っています。

父の日に当って

う久 松島賢三

父に感じる思い出。それは第二次世界大戦の頃のこ

と、当時は本気で元氣盛うで仕事好きな父でありました。明治、大正、昭和と農業一すじに生きて来た父。戦争で二人の子供を失った。物資、食糧難時代を本者に心の中では人だてに悲しむや幾多の苦勞があった事とあります。

私も今では二児の父親となり、両親の苦勞も痛いほど分る様になりました。

今はすつかり老令となつた父。私は両親だけは暖かく送ってやりたいと思います。

父の日に思う

中学二年横手明

中学になって父に反抗することが多くなった。父の行動に納得しようにとせず、自分だったらいこうするのにと理想的な父を想像するのだ。でも父は家族の為に毎日働いている。このことには頭が下がる。

「父の日」父に感謝する
日である、しかしその日一
日だけの感謝は形だけだす
かない。

自分にとって最も良き感
謝は、勉強を一生懸命やる
ことだ。自分の将来のため
に、又感謝して下り最善を
尽したい。

教えてくれる父

小学六年生 田昭夫

ぼくは、父を尊敬してい
ます。どうしてかと云うと
ぼくにいろいろなことを教
えてくれるからです。せん
なところが好きです。

だから又、物事をたのまれ
るとことわれません。

それと、とてもえらいと
思います。いつかテニラ
がこわれたときでも自分で
ちがう物を使って治したの
です。その時、僕が見てい
ると、すぐ人にたよるより

自分で出来ることは、自分

でして見ると云うことを
教えてくれました。だから
父を尊敬しています。

人様に励ませられ

柿田 谷口義春

五年前、突然私の衣に思
いがけない不幸が襲って来
ました。労災事故で二年間
入院を治をして、車いすを
治者となつてしまいました。この

ま、永久に歩く事が出来な
いと医者に云われました。
その時の気持ちには口で理
才事は出来ません。毎日こ
が元気で傷んでいる姿を見
て残念でならなかった。

悪夢の様なあの時昨日の
様な気が致します。けれど共
気持ちを取り直して去の中
には私よりも重度の障害を
持つ人々が多いのだと絶え
ず思う様になり頑張る気力
が出来ました。

然し昨年の秋、又走れる不

幸に見舞われました。不自
由な身体、私を残して妻の
他界。前途が真暗になり
後を追いたい思いで一時は
さいふんうらみしました。

絶えず古い聞かせていた
のには人間は上を見て暮す
な。下を見て暮らす頑張れ
と毎日の様に話していまし
たのに残念です。残る親子
も一時途方に暮れましたが

町内部落、近所の人々の暖
い励ましに支えられ、激痛
と戦い下り力強くを抜く事
が出来た様になり人様の心
温る真情に感謝して残る
余生を過したいと思ひます。

郷土を知り

昔を知ろう

禪宗(曹洞宗)

宗通寺

大学大家本郷 四日市

一本尊 阿弥陀如来

二由緒 創建不詳

慶長三年、大嶽山城す、

大江(大家)元広氏は毛利
氏との戦いで落城した。
彼の菩提所であるこの寺
に駆け込み自刃したと云う。
その際毛利の軍勢が追撃し
堂宇、仏像、汁器等多くを
焼失したと云う。

三現住職 三谷 長江寺
小笠原真龍 参事資料
大代町誌
新社寺案内
大田市誌
(記事 山本清助)

